



七尾市

地区別復興構想  
**徳田地区**

2025.11

## 目次

地区別復興構想の策定にあたって-----	2
七尾市戦略的復興プランとの関連性-----	3
1 徳田地区の現況の整理-----	4
2 地域の課題-----	8
3 復興まちづくりの方針-----	10
4 復興まちづくりに向けて考えられる施策-----	12

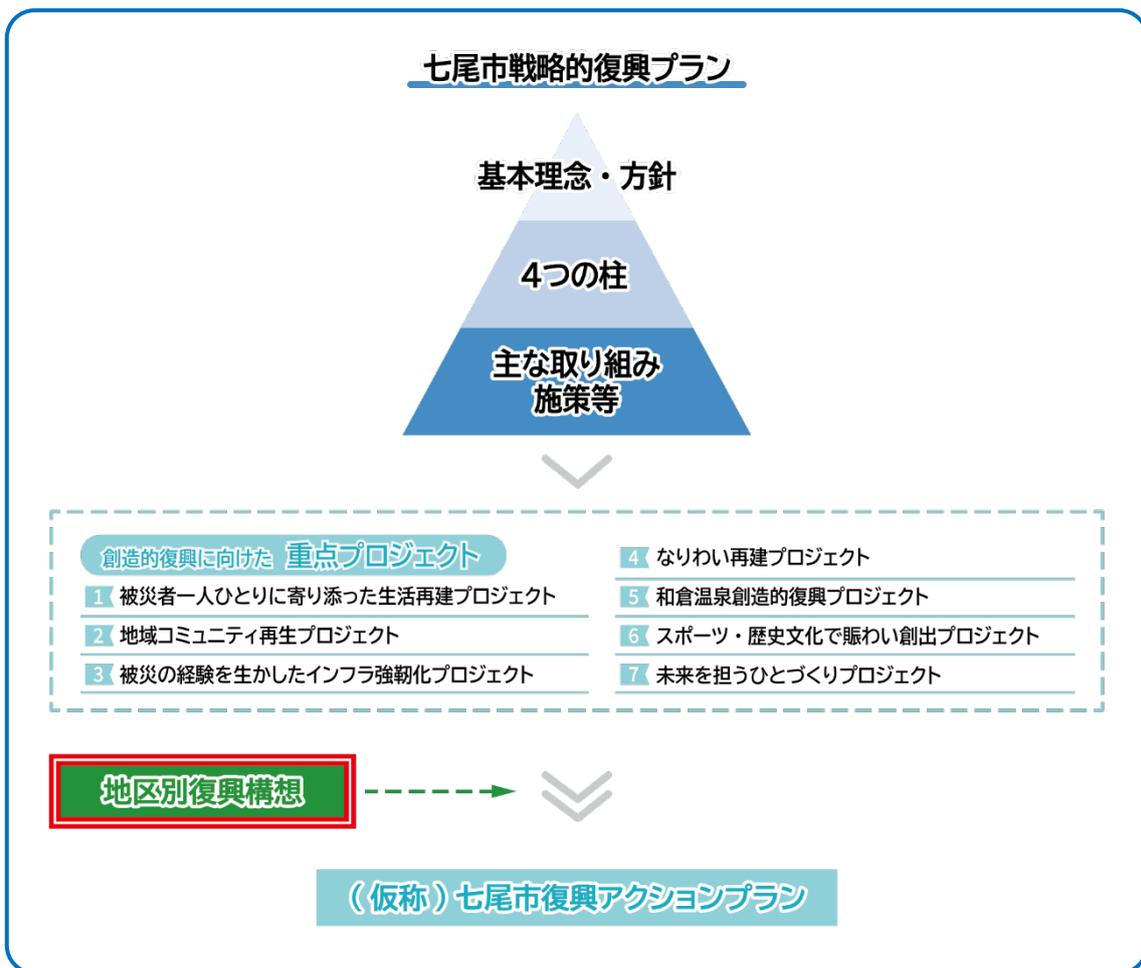
この構想は、復興に向けた課題と方向性を整理したものであり、今後七尾市として事業化の検討を行います。

## 地区別復興構想の策定にあたって

令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた本市では、震災からの復興に向け、さらに魅力あるまちへ発展していくため、令和7年2月に「七尾市戦略的復興プラン」を策定しました。

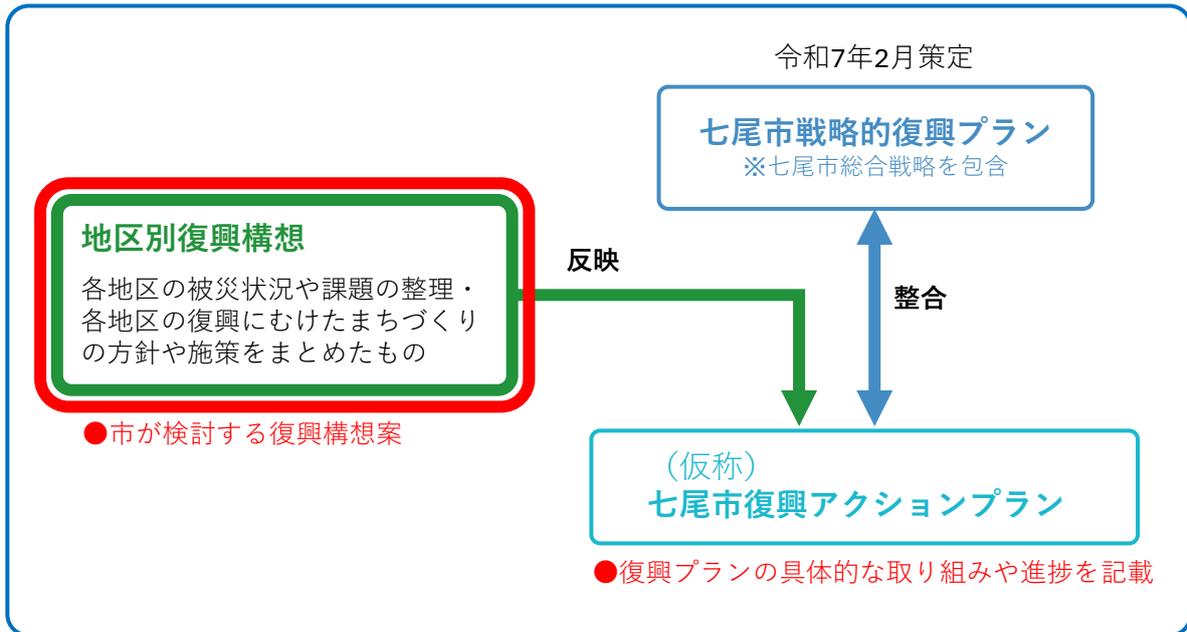
復興のまちづくりの将来像として「すべての暮らしと営みに幸せを～みんなの笑顔が輝くまち～」を掲げて、市民一人ひとりが主体となり、市民と行政が力を結集し、創造的かつ戦略的復興に向けて多くの取組みを実施する必要があります。

これらの取組みの着実な推進に向けて、市内全15地区の復興に向けた課題と方向性を整理した「地区別復興構想」を策定しました。本構想をもとに地域の復興への取組みを進めていきます。



## 七尾市戦略的復興プランとの関連性

市内の各地区において、それぞれの地域特性や被災状況に基づき、「地区別復興構想」を策定しました。これらの構想は、地域の再生と発展を目指すものであり、七尾市復興アクションプランに反映します。これにより、官民が一体となって連携し、創造的な復興を推進していきます。



今年度は、地区単位での復興を推進するため、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施しました。意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取り組み」に対して意見を伺いました。



# 1 徳田地区の現況の整理

## (1) 被災状況

七尾市南部に位置し、令和7年10月末時点で人口4,580人の地区である。

明治22年に13村の合併で成立した徳田村が、昭和14年の七尾町及び1町5村（東湊村、矢田郷村、徳田村、西湊村、石崎村、和倉町の一部）、平成16年に3町（田鶴浜町、中島町、能登島町）との合併により七尾市となる。

令和6年能登半島地震により、被災した住家の約24%が半壊以上の被害を受けた。また公費解体による住居解体が進んでいるため、今後空き地や空き家が増加する見込みである。そのほかの被害は以下のとおりである。

住宅	被災した住家の約24%が半壊以上の被害
公共施設	壁の損傷や設備の故障などの被害 (朝日小学校、のと里山里海ミュージアム、徳田地区コミュニティセンター、南部体育館) 七尾フラワーパークのグラウンドゴルフ場と駐車場の一部が崩落 能登国分寺展示館では地面の沈下・液状化が発生
道路	白馬町・下町などで車道のひび割れなどの被害
護岸・河川	大きな被害は確認されていない
公園・緑地	能登歴史公園で浄化槽の破損などの被害
その他	斜面崩壊が2か所で発生 宅地造成被害が1か所で発生 ため池被害が5か所で発生

## (2) 各種災害におけるリスク

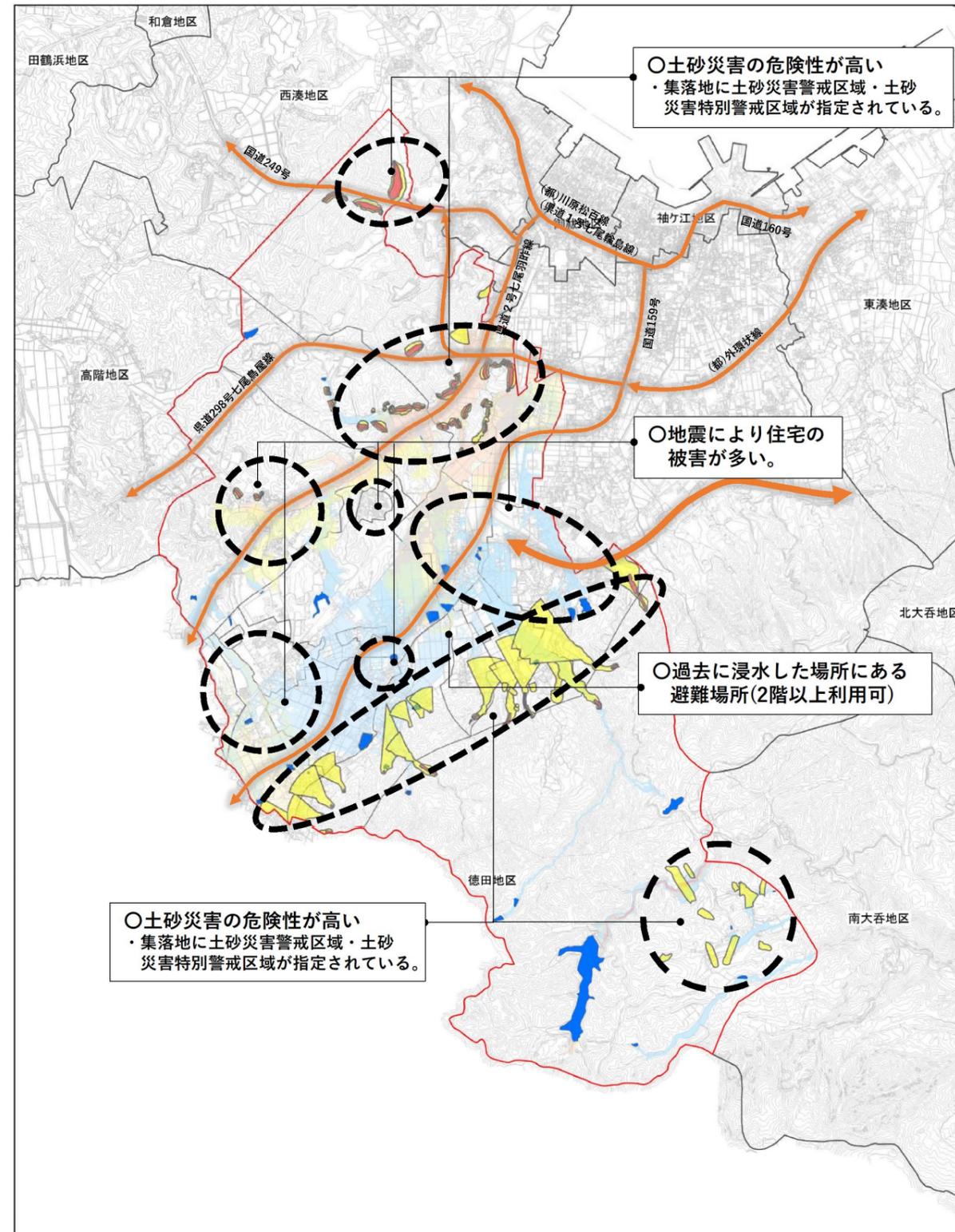
土砂災害の危険性が高いエリアが地区の東西部分にあり、集落地の一部が土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定されていて、被害が発生するリスクが高い状況である。

また、当該地区では御祓川および鷹合川沿川で浸水歴があり、避難場所に指定されている徳田地区コミュニティセンターは浸水するリスクがあるため2階以上への避難が必要である。

また、地震により能登国分寺展示館では液状化が発生している。その他にも、以下のような災害リスクがある。

津波	津波による浸水リスクは無い
洪水	浸水深 0.5m未満の地区が北東側に想定 御祓川の氾濫による国分町の浸水リスクが想定
土砂災害	鷹合川を挟む山側斜面と徳田地区の南側に位置する溪流の下方で土砂災害リスクが想定
その他 (ため池氾濫など)	36 か所のため池で氾濫リスクが想定 平野部で液状化リスクが想定

現況分析 | 徳田地区



○土砂災害の危険性が高い  
・集落地に土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域が指定されている。

○土砂災害の危険性が高い  
・集落地に土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域が指定されている。

○地震により住宅の被害が多い。

○過去に浸水した場所にある避難場所(2階以上利用可)

凡例		
土砂災害(特別)警戒区域(R04)	洪水浸水想定区域(R05) (想定最大規模)	ため池
土砂災害警戒区域	0.0-0.5	ため池浸水想定区域(H26)
土砂災害特別警戒区域	0.5-3.0	津波浸水想定区域(H29)
	3.0-5.0	対象地区
	5.0-10.0	地区界
	10.0-	字界





## 2 地域の課題

### (1) 住宅 | 地域特有の集落形成と被災

地区の中央部は良好な田園環境を有し、その中に集落が点在している。被災した住家の約 24%が半壊以上の被害を受けており、こうした被害を受けた集落では、今後空き地や空き家の増加が予想されるため管理や活用について検討が求められている。

### (2) 暮らし | 生活利便施設の立地

生活利便施設は、広域幹線道路である国道 159 号沿道に立地しており、JR 七尾線徳田駅周辺など集落が集中している地区には施設立地が少ない状況である。高齢化が進むことが想定される中では、移動手段の確保など、地域共助の中での取組みが求められる。

### (3) 仕事 | 農業の被害

液状化や浸水に伴う農業の被害が発生している。

### (4) インフラ・防災 | 避難所の確保・洪水や土砂災害のリスク

震災時は、指定避難所の開設が遅れた場所もあった。また、各町で避難所として活用している集会施設は、修繕などが必要な状況である。

県道 2 号七尾羽咋線沿道及び西部山麓部では土砂災害警戒区域または土砂災害特別警戒区域に指定され、人命や住宅の被害及び物資輸送路などのインフラの被害が発生するリスクが高い状況である。

### (5) 交通 | 緊急輸送道路の機能確保

県道 2 号七尾羽咋線周辺で土砂災害の発生リスクが高い箇所があり、災害発生時に緊急輸送道路が機能不全に陥る恐れがある。



## 3 復興まちづくりの方針

地域の宝である豊かな田園環境を保全しながら、人口減少や高齢化が進む中においても、点在する集落の生活環境を確保していくことが重要である。

### 復興まちづくりの基本方針

#### (1) 住宅 | 居住の考え方

被災世帯は高齢世帯、単身世帯などその形態は様々であることから、一人ひとりの現状を考慮しながら、被災者が一日でも早く震災前の日常生活に戻れるよう、住まいの確保、心のケアなど、生活の再建に向けた取組みを進めていく。また被災住宅の復旧支援など生活再建に必要な住居の確保も重要である。今後、空き地・空き家の増加が見込まれることから、地域と行政で連携した空き地や空き家の対策を促進する。

人口減少下において、地区内への定住促進に向けて、徳田駅が立地する公共交通の利便性を活かした新たな住宅地形成や旧農業高校跡地の活用を検討する。

#### (2) 暮らし | 生活利便性向上の考え方

地域に人が住み続けるためには、若者世代などの定住促進や日常生活に必要な生活利便性の向上が必要である。周辺地区と連携しながら、イベントなどの開催や公共施設や食料品店などの生活利便施設の立地検討とともに移動販売や買い物支援サービスの充実など地域のニーズに合った生活利便性の確保を図る。

#### (3) 仕事 | 産業の考え方

震災の影響による地域産業の弱体化を防ぎ、事業の早期復旧及び継続を促すため、個人事業主や中小企業へ向けた支援が必要である。

また、農地などの災害復旧を進めるとともに、小規模ほ場など地域の実情に応じた営農支援制度について、国や県との調整を図り、事業化を検討する。

#### (4) インフラ・防災 | 安全なまちづくりの考え方

将来の大規模な自然災害の備えとして、迅速な避難所開設などの地域の初動体制強化や各避難所・集会施設の機能充実などを図る。また、迅速かつ効率的な物資輸送路の確保も重要な課題である。

広域交流道路である能越自動車道 I C との連絡の強化や地域間の連携を促進するため、市街地との連絡を強化するとともに、安全性の向上を図る。

また、土砂災害の危険性の高いエリアでは、震災の経験を踏まえた計画やマニュアルの見直しを進めるなど、避難体制の強化を進め被害低減に取り組む。浸水が想定されている河川については、河川改修を促進する。

#### (5) 交通 | 交通の考え方

災害が発生した場合にも物資を届けられるよう、土砂災害に対する被害抑制など緊急輸送道路の強靱化や、輸送経路の複線化を進めるとともに、災害に強い道路網の形成に取り組む。

## 4 復興まちづくりに向けて考えられる施策

令和7年2月に策定した「七尾市戦略的復興プラン」（計画期間：令和6～10年度）は、市全体の復興に向けた方向性を示したものである。そのため本構想は地区単位での復興を推進するものであり、課題や施策などについて地域づくり協議会と意見交換を実施した。

全2回の意見交換会では、「地域の現状と課題」「復興まちづくりの方針」「地域が重要と考える復興に向けた取組み」に対して意見を伺った。

### 意見交換会の概要

実施回	実施日	意見交換の内容
第1回	2025/5/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後の地域づくり協議会の活動状況について</li> <li>・地域が考えるまちづくりの現状と課題について</li> <li>・地域がイメージする20年後のまちづくりについて</li> </ul>
第2回	2025/7/25	重要と考える復興に向けた取組みについて



地域づくり協議会との意見交換会の様子

地域からの意見のなかで、優先順位の高い取組みを、「復興まちづくりに向けて考えられる施策」として以下に記載する。これらの施策と次頁の地図に整理された意見については、関係各課と協議のうえ、事業化に向けた検討を行う。

### 復興まちづくりに向けて考えられる施策

#### (1) 交流 | 地域コミュニティ強化に向けた支援【仕事・暮らし】

獅子舞などの文化的活動を継承する取組みが行われているが、担い手や資金の確保などの課題を抱えている。こうした地域の歴史文化を今後も継承するための資金面での支援や、活動の情報発信、ボランティア募集に向けた大学などとの連携が求められる。

#### (2) 交通 | 新たな交通サービス導入・強化【交通】

地区内にはコミュニティバス「ぐるっとセブン」が運行されているが、今後も車を運転できない住民の移動手段を確保するために、バスの運行形態や料金に関する検討やデマンド交通の導入などの検討が重要である。

#### (3) 空き地・空き家 | 解体・管理の支援【住宅・暮らし】

空き地・空き家は、震災によりさらに増加しており、放置されて管理不全となっているものが散見される状況にあるため、適切な管理を所有者に促していくことが求められる。

#### (4) 防災 | 災害時の対応強化【インフラ・防災】

毎年、防災訓練・避難訓練を実施し、地域防災力の強化を図っている。一方、自主防災組織が設立されているが積極的な活動は行われていない現状にあるため、こうした地域の組織を活かした防災活動の促進により、災害時の対応強化を図ることが求められる。

#### (5) 防災 | 観光施設の機能強化【インフラ・防災】

能登歴史公園は、七尾の歴史を発信する施設として重要な役割を果たしている。また、地区内の防災拠点としても期待されている。災害発生時に対応可能な駐車場スペースの確保など、防災拠点としての機能強化が求められる。

## 地区別意見整理図 | 徳田地区

※この地図は、意見交換会の中で出た意見を記載したものです。



### くらし

(1) 能登歴史公園の駐車場の確保

### インフラ・防災

(2) 能登歴史公園の防災機能の強化

● 地区全域にまたがるハード関連事業

### くらし

(3) 地域の実状に応じたほ場整備の推進

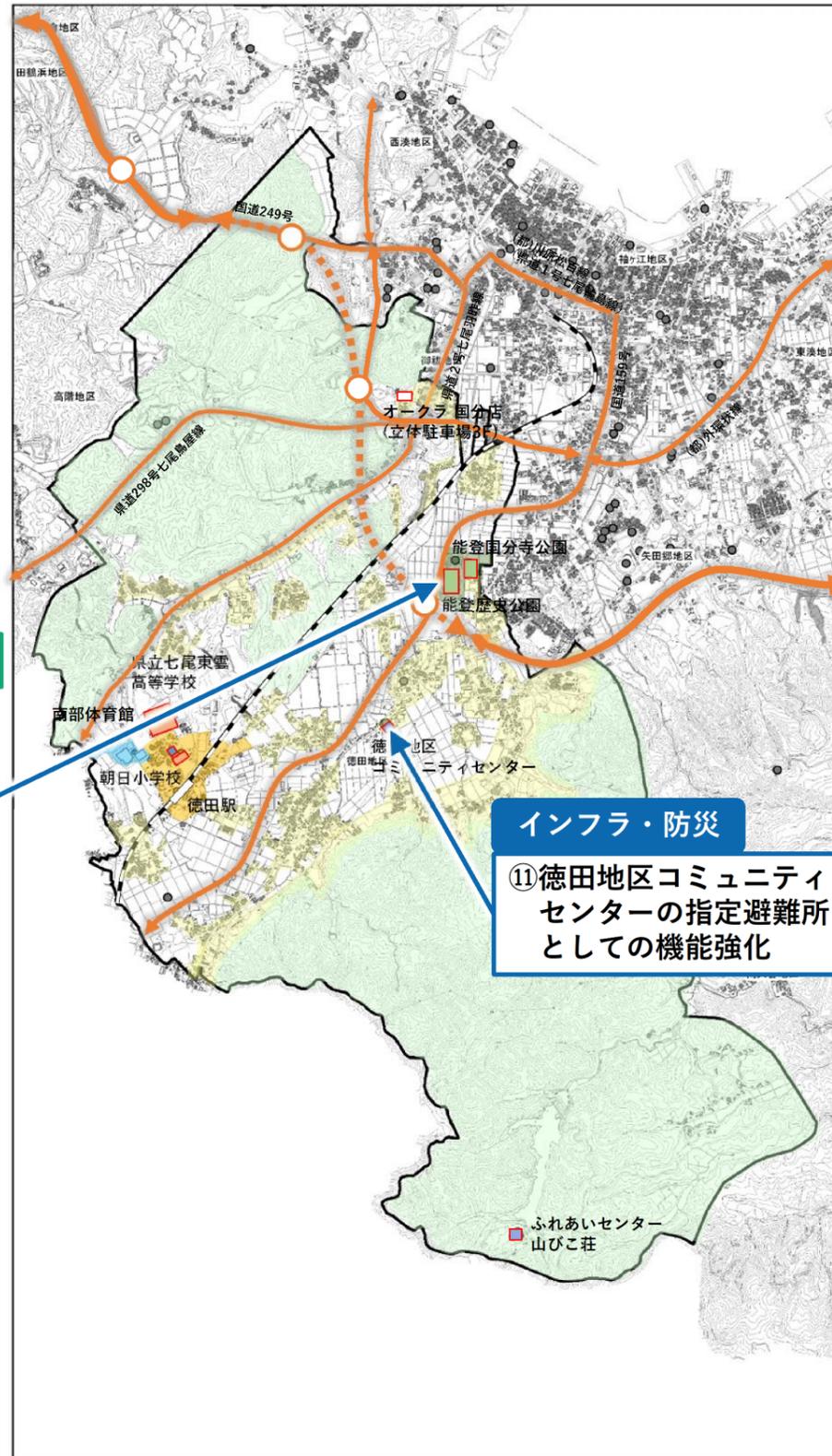
### インフラ・防災

(4) 避難所・集会施設の修繕

(5) 集会施設の機能強化

(6) 地盤沈下・河川氾濫への防災対策

(7) 子どもの遊び場整備



### インフラ・防災

⑪ 徳田地区コミュニティセンターの指定避難所としての機能強化

### ● ソフト関連事業

#### 住宅

① 住宅の再建支援

#### くらし

② 獅子舞など文化的活動の支援

③ 空き家・空き地の管理

#### インフラ・防災

④ 耐震工事の補助金制度の充実

⑤ 日常的にも利用する避難所の整備

⑥ 防災組織の機能強化

⑦ 地域の防犯対策強化

⑧ 孤立する地域が避難できる対策

⑨ 避難所運営体制の強化

#### 交通

⑩ 新たな地域公共交通（デマンド交通）の導入

### 凡例

#### ● 主要機能

- 学校
- 緑地・広場
- 集会施設等
- 幹線道路
- 指定避難所・指定緊急避難場所

#### ● ゾーン

- 住宅・市街地
- 公園・緑地
- 農地
- 森林

#### ● 地区別意見整理図に記載の取組みの分類

- (1) …ハード事業として想定する取組み
- ① …ソフト事業として想定する取組み

- 住宅
- くらし
- 仕事
- インフラ・防災
- 交通